

第七回留学報告書

2023年12月

若原征哉

2020年秋から FOS 奨学生として、アメリカ合衆国ミネソタ州にあるミネソタ大学にて Land and Atmospheric Science program に参加し、精密農業を専攻しています。

1. 博士課程後半戦へ

第六回の留学報告書でも書いた通り、今夏に preliminary exam を受験しました。口頭試験後に通過要件として課された文献調査は、一度訂正を受けた後で受理され、無事に Ph.D. candidate となることができました。今後は、1 単位のみ名目上の履修をすることでフルタイムの学生として扱ってもらえる Advanced Status という資格で、卒業まで研究に専念していきます。指導教員との予定では、卒業論文の4章を約2年ほどで執筆することになっています。この秋学期は、第1章目の研究として、所属研究グループが過去20年ほどにわたって生成した実験データからデータベースを作成して、これを基にジャガイモの窒素状態を予測するための機械学習モデルを作っています。11月には、ミズーリ州セントルイスで開催された ASA-CSSA-SSSA 学会に参加し、進捗の発表をしました。口頭発表の学生コンペに参加していましたが、幸運なことに3位を受賞しました。年末にかけて機械学習モデルの改善をし、指導教員から執筆作業に移行する許可が出たので、自身初の論文出版に向けて書き進めていこうと思います。

船井財団からの支援のあと、所属大学から獲得したフェローシップが8月末で終わりました。秋学期は、指導教員が RA を付けてくれましたが、指導教員からは資金探しをしてほしいといわれました。恐らく指導教員の中では、資金繰りの目途は立っているはずですが、余分にあって困るものではないので発破をかけられた形だと思います。フェローシップ獲得で、自分の懐に余裕が出るわけではないですが、指導教員からの圧が減って自分のペースで研究しやすくなるのと、履歴書に書くこともできるので取り組むことにしました。研究内容を基に、DSI (Data Science Initiative)-MnDRIVE PhD Graduate Assistantship Program 2024 というフェローシップを選びました。募集要項に記載されていた適正人材に当てはまっていた上に、申請書も上手く書くことが出来たので、可能性はあると思っていました。すると有難いことに、申請2か月後の12月中旬に選出の知らせを受け、2024年分の資金を獲得ことができました。今回は、CollegeではなくUniversityからのフェローシップなので、履歴書に書く際にも少し拍が出るかもしれません。指導教員からは、祝福と同時に、あと一つ卒業前にフェローシップを取ってほしいと言われました。多分、味を占めていますがお世話になっているので頑張ってみようと思います。

博士課程も後半戦に入ったので、少し卒業後の進路にも目を向けていくべき時期になりました。所属大学にはメンターシッププログラムがあり、同窓生が在学生のネットワークや就職活動を手伝ってくれる取り組みがあります。今秋からこのプログラムに参加し、同系統の博士を取得したメンターと約9か月ほど、月一回のペースで会い話を進めていくことになりました。頼もしいメンターの胸を借りて、少しずつ就職に向けて動いていきます。

2. 私生活

今秋は兄の結婚式に参加するため、2020年秋の渡米後初めて帰国することができました。妻と共に帰国し、家族や友人と再会することができ、充実した時間を過ごすことができました。治安が良く、ご飯もおいしく、街も綺麗で、日本の良さをあたためて実感しました。一方で、アナログ健在の日本ならではの苦労もありました。不在中に運転免許の期限が切れることが分かっていたので、2020年の出国前に更新のための手筈を聞いていました。電話口で伝えられた書類を持って運転免許センターへ行くと、パスポートに出入国の際のスタンプがないことを指摘されました。電話口では当該の事項を伝えられなかったため、わざわざ出入国の際にスタンプをもらいませんでした。ただ、その他の関係書類から、免許更新期間の間に国内に不在であることが明瞭であるにも関わらず、スタンプがないという理由で免許更新ができませんでした。そして、パスポートにスタンプがないことを補うための資料として、出入国管理局から書類を取り寄せるように言われたのですが、郵送でのやり取りらしく2か月ほどかかると言われました。今回の滞在は4週間ほどでしたので、次回帰国する際に免許更新をすることにしました。この辺は、アメリカのほうが簡略化されていると思いました。

今年の秋も、大学サッカーをしました。結果は、去年の全国大会2位から下落し、全国ベスト16でした。去年からヘッドコーチが変わり、チームの方針があまり定まらないシーズンでした。ヘッドコーチ、次期キャプテンや他のチームメイトからはあと一年一緒にやろうと嬉しい誘いを受けている一方で、2月には第一児が誕生する予定なので考え物です。恐らく、チームに完全帯同するのは2023年で最後になると思います。ただ、娘が大きくなった時に一緒に体を動かすのが目標なので、これからも楽しくサッカーは続けていくつもりにしています。一方で、少し子供との関わり方を学ぶことや、スキルを身に着けるために、秋から少年サッカーのコーチをしています。12歳前後のわんぱくな子供たちに週2~3回ほどサッカーを教えています。日米でサッカー観の違いもあり面白い体験ができています。博士課程を卒業するまでは続けてみようと思っています。

そして、前述のとおり2月に娘が生まれる予定です。実感が湧いていないため不安もあまりありませんが、生後1~2か月は夜泣きで眠れないという話を妻や両親から聞いているので、良

く寝る娘が生まれてきてほしいです。私が末っ子だから？か赤ちゃんに関する知識は全くありませんが、妻は7人兄妹の長女そして母の子育てを手伝ったらしいので頼もしいです。子育てを見越して、今秋に、閑静で自然の多い住宅街にある2ベッドルームのアパートへ引っ越し、子育てのために必要なものも Amazon を利用して妻が揃えてくれています。妻の言うことを聞きながら、子育て頑張ります。



結婚おめでとう！